

スミナガシ: 身体性を伴うデジタル絵画

Sumi-Nagashi: Adding Corporeality to Digital Painting

日本の伝統芸術「墨流し」をモチーフにした流れるデジタル絵画を、指先で文字通り体感可能なデジタルコンテンツを作成した。本来は存在するはずのないデジタルな絵の具の触感を生み出すことにより、「描く」という行為における身体性がいかに作品に意味を与えるものか、体験者へ認識を促す新たな試みである。

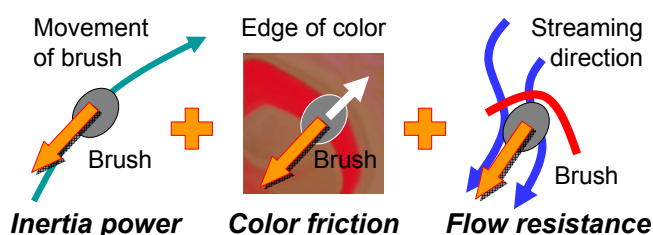
定義されたデジタルな色の持つ「感触」

- 慣性力 (Inertia power)

選択中の絵の具の「色の重さ」と筆の大きさに依存
「色の重さ」は明度により定義(明⇒軽、暗⇒重)
- 色摩擦抵抗 (Color friction)

筆の下の色の**変化**により決定される抵抗力
周波数が高い⇒強い抵抗、色の境目⇒横切る際に抵抗
- 流体抵抗 (Flow resistance)

流れに押し戻されるように発生する力



Touchable digital painting Sumi-Nagashi

主な機能

- ペイント機能

簡単なデジタルペイントを実現する
筆で色をおく、混色させる、スタンプ等が可能
- 力覚(+流れ)提示機能

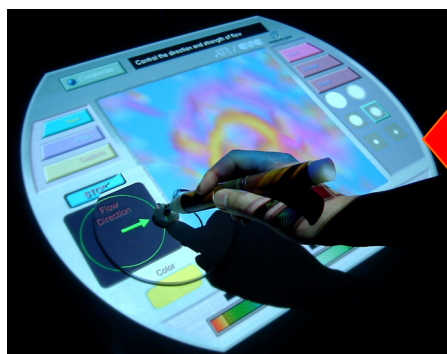
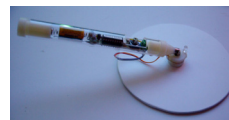
視覚的かつ触覚的な「流れ」を生み出す
キャンバスには仮想的「流れ」が存在し、流れに乗って色と感触が流動的に変化する

ハードウェアの構成

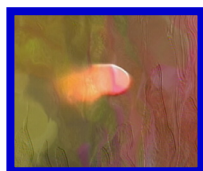
- デジタルキャンバス

触感の生成にはProactive Deskを利用。リニア誘導モータによる力覚提示の仕組みにより、体験者は通常のタブレットを扱っているかのような見た目と操作感覚で作品を作ることが可能である
- 筆型デバイス

「流れる絵」は筆型デバイスを通じ体感可能
入力装置であり出力装置でもある



ペイント



力覚提示

